

Title	サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要)
Author(s)	小島, 祥三; 松林, 清明; 後藤, 俊二; 鈴木, 樹理; 松林, 伸子
Citation	霊長類研究所年報 (1995), 25: 43-45
Issue Date	1995-11-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/164728
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

- (Kuta, Bali, Indonesia, August, 1994).
Handbook and Abstracts: p. 134.
- 5) Watanabe, K. (1994): Some basic data on the ecology of *Macaca hecki* in Central Sulawesi. XIVth Congress of the International Primatological Society (Kuta, Bali, Indonesia, August, 1994).
Handbook and Abstracts: p.303.

サル類保健飼育管理施設

小島祥三(施設長・兼)・松林清明
後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子¹⁾

平成6年度の施設の概要は以下のようであった。

- 1) 類人猿行動実験研究棟の工事が完了した。サル関係部分は、大放飼場・小放飼場・建物地階・1階・2階で、2階がマカク・キャプチンおよびテナガザルのホームケージ、それ以外はチンパンジー用である。2階の各飼育室は、人工気象室以外は広い窓を設け、採光や通風など、飼育環境が大巾に改善された。また、チンプの各放飼場は、小川や樹木、擬木、ロープ、休息台などが設置されて環境がさらに豊かになった。また金網の屋根の付いた小放飼場によって、休日でも外気の中で遊ぶことが可能になった。単に安全に飼育する段階を越えて、動物のpsychological well-beingを考えた設計が研究施設でも行われるようになったのは画期的なことであり、関係各位の御理解のたまものであると云える。
- 2) 飼育の一元化にむけて所内の合意形成のための努力を行い、平成7年度からの実施が決定した。施設会議・所員集会・協議委員会および非常勤職員との話し合いで説明と討議を重ね、施設設置以来25年を経てようやく所内の全てのサルを、一元的に管理することとなった。目的は、1)部門に配分した実験用サルをも同一の条件で飼育し、動物福祉上の配慮を同じレベルで行う。2)土・日曜や祝日の飼育も一元的に行うことで、健康面のチェックを継続して行う。3)サル施設の本来の設立目的である所内のサルの全面的管

理を実質的に完遂することである。

- 3) 外国人受託研究員の受け入れとして、ケニヤ 霊長類研究所のコロニーマネージャー、ローレンス・シレンゴ氏が、94年5月から95年1月まで滞在し、寄生虫検査・血液検査・臨床繁殖・コンピューターによる管理などの技術研修を行った。

研究概要

A) サル類の生殖生物学的研究

松林清明

老化に伴う生殖機能の変化を、特にオス生殖器の組織学的検索を中心に検討した。またニシロウランドゴリラの精巣標本について、組織学的特徴を探り、チンパンジーとの比較研究を進めた。

B) 実験用サルの動物福祉の研究

松林清明

採食時間を延長するうえでの基礎研究として、バズル餌箱の効果を計るため、バズルパターンと年令の関係を調べた。また飼育サル類の適正なケージサイズについて科学的根拠のあるモデル案をまとめた。

C) サル類の寄生虫に関する研究

後藤俊二

前年度より引き続き犬糸状虫のニホンザルへの人工感染を継続し、血液性状の変化やIgG抗体の変動等を調べるとともに、病理学的検索を行った。また、スラウエシマカクの種間雑種群について捕獲調査により寄生虫相の検索を行った。

D) サル類の成長の生理学的及び形態学的研究

鈴木樹理

サル類の成長ホルモンの分泌動態を明らかにするために、ニホンザルについて、連続採血と採尿を行なった。これらの成長ホルモン動態を調べたところ、特に尿中のホルモン動態はヒトと異なっていることが明らかになった。継続して行っている縦断的な生体計測も行い成長の解析を行った。

E) サル類のストレス定量のための基礎的研究

鈴木樹理

日常的にサル類に負荷されている様々なストレスを定量するための基礎研究として、異なるケージに飼育された時の尿中のカテコールアミンを測定した。また連続採血装置を用いて麻酔薬の投与による影響を血中のコルチゾルを指標に調べた。

1) 教務職員

論文

—英文—

- 1) Enomoto, T., Matsubayashi, K., Nagato, Y., and Nakano, M. (1994): Seasonal changes in the spermatogenic epithelium of adult Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Primates*, 35: 465-472.
- 2) Hashimoto, M., Sakaguchi, M., Inouye, S., Imaoka, K., Nigi, H., Fujimoto, K., Honjo, Y., Taniguchi, Y., Kurimoto, M., Gotoh, S., Minezawa, M., Yokota, A., and Nakamura, S. (1994): Prevalence of IgE antibody to crude and purified allergens of Japanese cedar pollen among different troops of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). *J. Med. Primatol.*, 23: 393-396.
- 3) Ishida, T., Suzuki, J., and Yamamoto, K. (1993): Serological features of infection with an Epstein-Barr-Virus-Like agent in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). *Folia Primatol.*, 61: 228-233.
- 4) Nagato, Y., Enomoto, T., and Matsubayashi, K. (1994): Observation on the cycle of the seminiferous epithelium in the Japanese macaques (*Macaca fuscata*) using semi-thin sections. *Primates*, 35: 455-464.

—和文—

- 1) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎 (1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. *霊長類研究*, 10: 94-104.

報告・その他

—和文—

- 1) 鈴木樹理(1995): ストレスを測定する. 第39回ブリマーテス研究会(1995年2月, 犬山, 愛知). 講演要旨集, p. 3.

学会発表等

—和文—

- 1) 松林清明・熊崎清則・松沢哲郎 (1994): サイズ可変パネルケージの開発. 第41回日本実験動物学会総会(1994年5月, つくば, 茨城). 講演要旨集, p.116.
- 2) 長戸康和・榎本知郎・長谷川有美・松林清明 (1994): ニホンザル精巣におけるセルトリ細胞の季節的变化. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). *霊長類研究*, 10: 163.
- 3) 中野まゆみ・榎本知郎・松林清明・長戸康和 (1994): ニホンザルの精上皮の加齢に伴う形態的变化. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). *霊長類研究*, 10: 164.
- 4) 鈴木樹理・川本 芳・竹中 修・石田貴文・Varavudhi, P. (1994): タイに生息するマカクの形態学的特徴. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). *霊長類研究*, 10:144.
- 5) 谷 浩行・和 秀雄・羽山伸一・中垣和英・松林清明 (1994): ゴールデンハムスター卵へのニホンザル精子進入率の季節変動. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). *霊長類研究*, 10: 138.
- 6) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎 (1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). *霊長類研究*, 10: 161.

1994年度(平成6年度)サル類動態表

区 分 種 名	増 加		死 亡					
	導 入	出 産	実 験 殺	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	そ の 他 の 疾 患	外 傷 死	剖 検 不 能 等
オ オ ガ ラ ゴ			1					
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン		5	2	1		1		1
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト		14	5			1	1	1
ニ ホ ン ザ ル	1	53	41	1	4	4	1	1
ア カ ゲ ザ ル		42	23	4	2	2		3
タ イ ワ ン ザ ル		1	1					
カ ニ ク イ ザ ル		4	2		1			
ボ ン ネ ッ ト ザ ル		4	1			1		
マ ン ト ヒ ヒ		1	2					
小 計	1	124	78	6	7	9	2	6
合 計	125		108					

注) (増加頭数) (減少頭数) 差引頭数
 $125 - 108 = 17$ (増加)

1994年度(平成6年度)末飼育頭数

種 名	頭 数	種 名	頭 数
コ モ ン ツ パ イ	1	ニ ホ ン ザ ル	343
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	3	ア カ ゲ ザ ル	238
オ オ ガ ラ ゴ	1	タ イ ワ ン ザ ル	15
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト	27	ブ タ オ ザ ル	2
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	20	ベ ニ ガ オ ザ ル	2
ヨ ザ ル	11	ボ ン ネ ッ ト ザ ル	14
リ ス ザ ル	3	カ ニ ク イ ザ ル	56
フ サ オ マ キ ザ ル	14	セ レ ベ ス マ カ ク	2
チュウベイクモザル	1	マ ン ト ヒ ヒ	7
ケ ナ ガ ク モ ザ ル	1	シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ミ ド リ ザ ル	5	ア ジ ル テ ナ ガ ザ ル	2
パ タ ス ザ ル	1	チ ン パ ン ジ ー	10
ミドリザル×パタスザル	2	合 計	783